

新宮山彦ぐるーぶ 第1749回

行仙宿・へり荷降りし・運び込み

◇ 実施日：平成26年2月21日(金) 快晴

◇ 参加者：山上皓一郎、根木俊明、沖崎吉信、児嶋道夫、

生熊敏男、中前 偉、畑林秀味、大江加予子、

川島 功、樋口義也、榎本康夫、村吉光夫、

青木宏充

計13名

17日、へり荷降りし中止を承知で行仙宿に単独行された青木さんは、タイヤチェーン装着しても、四ノ川林道の積雪が多くて進めず登山口かなり手前で駐車。積雪40〜50cmあり、新雪ラッセルで行仙宿小屋迄2時間を要し、佐田ノ辻の積雪は約70cmあったとの報告がある。

冬用タイヤ装着車でないと行仙宿登山口に行けない。又、延期後急遽の平日荷降りし日となり、2台8人位で登るつもりでいたが、有難い事に冬用タイヤ装着車の方の参加により13名となった。

浦向でR-225に入ると、大峯稜線は白くなっていて、未だかなり残雪している様だ。カナウナギトンネルを抜けると路肩に雪のブロックがあり、心配した白谷トンネル下の橋からの日陰の上り坂には、路肩に雪があるが路面は略乾き完全に除雪されていた。おそらく白谷林道工事車両通行か四ノ川林道奥での間伐作業のためと思われる。

林道入口は除雪されていたが、進むにつれ轍があるが、車底が触れる程の残雪がある。登山口辺りから奥は、ブルで踏み固められた雪面路面になっていた。登山口手前には既に村吉車が駐車。

今回積雪の中での登行のため、延期前の共同装備品を減らし、混合燃料(1L:3缶)、チェンソー(1台)、缶ビール(1箱)、水(2L:6本)、帯・はたき(各2)、真砂氏寄贈)、鳶口(1:湯川氏寄贈)、かまど・煙突目詰材(赤土・消石灰)を手分けして背負子等に付け、各自の判断でスパッツ、アイゼンを装着する。



鉄梯子階段を登ると、表面がクラストした積雪15〜20cm、浦向道分岐からは、積雪30〜40cmとなり、踏んだ足跡(青木氏の足跡?)を辿りながら登れるので多少楽に歩行出来る。

第二ベンチには、村吉さんが朝食・休憩されていた。

快晴無風、ここまで休まず登って来るとうっすらと汗をかく。第二ベンチから上は、日当りも良いが、それでも10〜15cmある。ベンチから上の杉林は、先般の台風で傾いていた杉が、今回の雪の重みで更に倒れ込んでいる。小屋下の補給路は、吹き溜まりとなり雪が多い。行者堂で作業の安全を祈る。

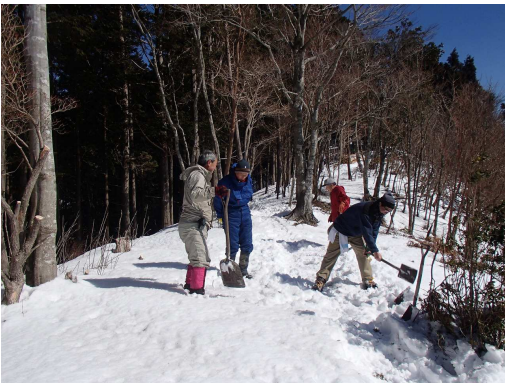
小屋西側の石垣横を通る大峯奥駈道は、吹き溜まりとなってい

て、石垣上から雪面斜面になり、こんな状況は初めてである。

気温氷点下1.5℃。小屋周りの積雪20〜30cmで、吹き溜まりの箇所は更に多い。男子便所の奥には約30cmの吹き溜まりになっていた。

除雪に必要なスコップ・ジョレンは、発電機小屋前を除雪しないと扉が開かない。発電機室内は約10cm吹き込んでいた。早く着いた者から小屋周りの除雪にかかる。

表面は少し溶けてクラストしているが、スコップで掘り投げると、その下はスノーパウダーなので飛び散り体に振りかかる。湿雪で無いので軽く、ジョレンで容易に掻き寄せられる。スコップは、地面にとどく迄切り込むと、設地面が融雪し凍っているの、粉雪サンドイッチの大きなブロックとして除雪できる。



全員が揃った時点で、ヘリ荷降し予定時間とこれからの作業内

容と分担を打合する。児嶋さん：屋根のソーラーパネルとバッテリー

機器の点検、根木、榎本、山上、畑林さん：現かまどの移動保管、

生熊さん：物置小屋内の持込鉄筋置場整理・発電機試運転、大江さん：小屋内の整理と児嶋さん作製のロケット・ストーブ焚付け。

これ以外の人達は、ヘリ荷降し地の踏み固め、小屋迄の運搬径の踏み固め・除雪に携わる。運搬に必要な通路が確保され、小屋周りを除雪する。かまどを移動する作業を始めたが、もろく簡単に崩れてしまい、移動保管が出来ず壊す事になった。児嶋さん発電バルネとバッテリーを連結する機器に不具合が見つかり、次回修理するとの事。

11時過ぎに東大阪市・青木さんが登って来られ、電源(株)関係者が登山口に着き、予定より早くなる様だと伝えて下さる。

11時半過ぎに昼食。缶ビールで乾杯しようか！ 何の乾杯や！ ヘリ荷上前祝で乾杯！

ロケット・ストーブは、煙い煙りも少なく上出来である。簡単な装置ながらその威力に感心すると共に製作された児嶋さんの技術力に感服する。

12時前にJPハイテックの作業員3名が小屋に着き、大ハンマーを後日拝借したいとの要請があり、沖崎さん発電機室に置かれている場所を案内する。登山口で昼食済とのことコーヒード休憩して頂く。作業員の無線交信から八尾から飛んだヘリは、21世紀の森のヘリポートに12時40分到着とのこと。その後、小屋東側窓下の間伐丸太に腰を掛け雑談する。風がさえぎられ陽当りが良く本当に暖かい。この暖かさで屋根の雪が溶けて、音を立って落ちてくる。此処で参加者の記念撮影。

荷降し地点確認飛行に飛ぶ時間となり、尾根のヘリ荷降し地点で待機。積雪延期の影響で2t吊ヘリが飛ぶので、風が強いので

要注意とのこと。エー・２t吊へり、荷上したい資材があったのに・・・。今回、21番鉄塔の補修資材と新宮山彦Gの混載資材の荷上並びに26番・30番鉄塔で作業を終えた残材などを21世紀の森に荷降する便との事。

昨年、行仙宿に着いて判ったのであるが、小屋に飲料水、非常食缶パン。木炭等担ぎ上げた後、21番鉄塔で作業されている人達とは知らずにお礼も言わず「雨水が溝となって流れ、補給路に土砂が流れ込む様になったので、雨水を分散するような対策」を要望すると共に当方でも対策を考えたいと伝えていた。この時の要望に忘れて、今回資材が荷上されたので、電源開発(株)の迅速な対応に感謝申し上げます。



槍ヶ岳・地蔵岳北側山麓を通り、22番鉄塔から西側植林帯に沿って飛び、小屋上あたりで旋回し、へり荷降し地点(踏み固めた雪面に目印のピンクテープでクロス)の確認飛行がある。

15分程待つと我々の荷を吊ったへりが、次第に大きく見え、

旋回を終えると、吊荷が次第に低く降り始め、作業員の誘導でびったり指定地点に荷が降りる。荷を切離し、高度を上げる時にやや強い風圧がある。皆でモッコを結束したロープ、上のプルーシートを外し、小屋の番線切で結束番線を切断。鉄筋は物置小屋の一番棚下、セメント4袋及び田中、真砂さん設計の棚・食台加工の木製資材は小屋内、コンクリートブロック10個は小屋東側窓下に皆で運ぶ。大江さん寄贈のかまどは、4人で運ぶ、荷降し資材530kgは、25分で運搬し終える。

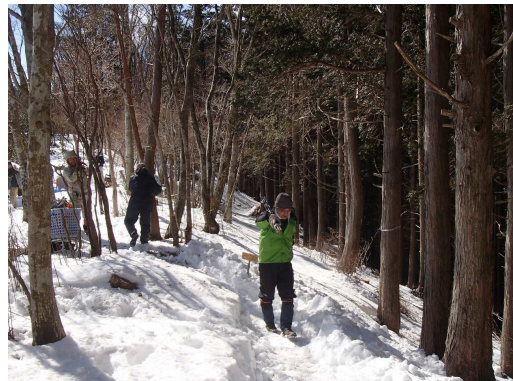
尚、田中・真砂さんは、24日〜25日に登り作業される。



同じ大きさの新かまどは、除けた架台に載せると、煙突の位置が新は右側、旧は左側にあったので、室外へ出す上部煙突とズレ、真っ直ぐに継げない。煙突を真っ直ぐ継ぐには、エルボ煙突を調達する必要がある、この場合煙突掃除が難しい。上部煙突に合わせてかまどを移動すると、新たに架台を作る必要がある。

皆で相談の上、かまどを流し台から離し、現状の上部煙突と繋

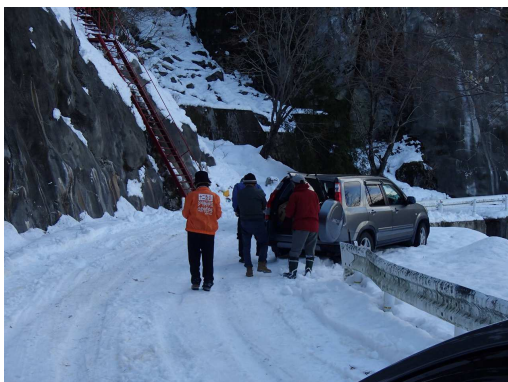
ぐ事になり、レンガ等を積重ねた架台設置をすることになった。
JP ハイテックの作業員は、モッコと吊荷金具及び21番鉄塔の雨水対策資材を担いで14時15分に下山。



我々は作業を終えコーヒータイム。村吉さんは、乾・佐藤さん不参加のため、自発的にコーヒー担当だと挽いたコーヒー・フィルター等持参して頂き、コーヒーを入れて下さる。村吉さんは、当Gが管理する持経・平治・行仙宿の非常食は、定期的に一人で点検補充して下さっている。大江さん、児嶋さん、田中・真砂さん達は、自発的に小屋内の使い勝手が良くなる様に提案実施して下さる。この行為の積み重ねが、行者・登山者が利用し、新宮山彦ぐるーぶの活動評価を上げ認めて頂く事になり、本当に有難いことである。

明日、笠捨山に登るために宿泊される青木さんを残し下山する。雪深い路肩に駐車した前輪駆動の川島車は、空回りして動かない、5人位で押して貰って踏み固められた林道へ戻れる。

踏まれている転回地点に駐車した沖崎車は、四輪駆動であり問題なく動くと思っただが、やはり空回りして動かない。押すが重いので動かない。進む方向側のタイヤ下を除雪して押して林道に戻れる。駐車している間に車体の重みでタイヤ下の雪が溶けて、雪の車止め状態になり、動けなくなったと思われる。
今回大勢居たから押して貰え、また除雪道具を携行していたから動かす事が出来た。雪道走行には、冬用タイヤ装着していてもタイヤチェーン、除雪道具、ジャッキ使用時に路面が沈み込を防ぐ厚板は、車に準備・携行する事の必要性を再認識した。



コースタイム

新宮 7:00 → 7:55 小阪 → 8:50 行仙宿登山口 9:15 → 10:25 行仙宿
(小屋周辺及びヘリポート地の除雪・踏み固めなど) → 11:40 昼食・
休憩 13:00 → 13:25 ヘリ荷降し地確認飛行 → 13:40 ヘリ荷降し・運
搬 14:05 → (下山前の休憩と下山準備) 行仙宿 15:00 → 15:40 登山口
15:50 → 17:40 新宮 (川島記)